

財団法人 日本クリスチャンアカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2006年6月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャンアカデミー
東京都新宿区西早稲田2-3-18
03(3207)6198
振替口座 01020-1-5184

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第475号



新世代エキュメニズムの模索

財団評議員 小原 克博



けでなく、異なる宗教者との
出会いが、私にとっては端的
に「楽しい」経験であったか
らである。視野を開かれ、自
らを内省する機会は大いなる
知的刺激となり、また、立場
を越えて育まれる友情を通じ
て、「信じる」ということの広
大な奥深さを、かいま見たの
であった。ドイツに留学中に
は、キリスト教以外の一神教
すなわち、ユダヤ教とイス
ラームとの出会いもあった。
奇遇にも、ドイツ滞在中に
ベルリンの壁の崩壊、東西ド
イツの統一を経験した。それ
から、あっという間に十数年
の月日が過ぎて、今日に至っ
ている。若い頃は、知的好奇
心をたぎらせた「やんちゃ坊
主」のように未知なる世界と
の出会いや学びを求めた。し
かし、まだ若輩者とはいえず、
ある程度の大人になった今、
これまでの経験を生かして、
どのようなイニシアティブを
取ることが自らの信仰に誠実

な行為となり、また同時に、
キリスト教の現代的意義を問
いただすことになるのか、と
考えるようになった。言うま
でもなく、その問いに対する
応答は現在進行中であるが、
近年の取り組みとその課題を
簡単に紹介してみたい。

年の「京都・宗教学大学院連
合」の設立に尽力した。加盟
七校の内、キリスト教の同志
社以外はすべて仏教系の大学
院であるが、そこでキリスト
教は仏教間の対話を活性化す
るための「触媒」の役割を果
たしてきたと思う。エキュメ
ニズムという言葉は元来、キ
リスト教内の教派の違いを超
えようとする運動を意味する
が、この連合では、キリスト
教が媒介となって、仏教間の
エキュメニズムが胎動し始め
たと言える。

キリスト教は、これからの
時代、どのような役割を担っ
ていくことになるのだろうか。
私が問いたのは、現状の延
長線上にあるキリスト教の未
来像ではなく、むしろ、どの
ような役割を自ら見いだして
いくべきなのか、ということ
である。ここでは、他の宗教
者との「はなしあい」の中で
私が経験してきたことを振り
返りながら、その問いの一部
に答えたいと思う。

研究面では、二〇〇〇年に
仏教の友人たちと共に「宗教
倫理学会」を設立した。漠然
とした宗教間対話にうんざり
していたこともあって、この
学会を、現代社会が抱える具
体的な倫理的テーマ（先端医
療・環境問題等）を共有し、
知恵を寄せ合い、日常的に互
いを切磋琢磨する場にした
と考えた。

二〇〇三年には、同志社大
学の「一神教の学際的研究
——文明の共存と安全保障の
視点から」が、文部科学省の
主催する「二一世紀COEプ
ログラム」に採択され、年間
約七千万円規模の助成を五年
間受けることになった。これ
は世界的に見ても例のない、
かなり大胆な一神教研究のプ
ロジェクトである。

また教育面では、二〇〇五
年「同志社大学神学部教授

私は学生時代から、仏教を
はじめとする日本宗教と比較
的多くの接点を持ってきた。
それは学問的な関心によるだ

また教育面では、二〇〇五

私は長い目をもって育ててい
きたいと願っている。

同志社大学神学部教授

私は学生時代から、仏教を
はじめとする日本宗教と比較
的多くの接点を持ってきた。
それは学問的な関心によるだ

私は長い目をもって育ててい
きたいと願っている。

同志社大学神学部教授

同志社大学神学部教授